
クリーム色の出会い

桜井健一

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

クリーム色の出会い

【Nコード】

N9643G

【作者名】

桜井健一

【あらすじ】

僕の勤めているオフィスに、ある1人のチャームینگなレイディがいる。そんな彼女に僕がつけた、あるハートフルなニックネームに関する淡いストーリー。

ある日、僕はオフィスで、クリーム色のジャケット姿のレディに恋をした。

カスタードとホワイトクリームが一つになったような、クリーム色だった。

僕は、書類を書くシャープペンの手を止め、窓の外へ目をやった。夏の、大きく広がる澄んだ青空で、散在した白い雲がゆっくりと動いている。

雲を見ながら、僕は、ふと思った。
思えば、僕の初恋もクリーム色だった……。

その夜、僕は星の見えるベランダで、カクテルを前に、一人、クリームレディのことを思い浮かべていた。

僕が、心の中で、オフィスのレディに付けた名前。

それが、「クリームレディ」だ。

と、突然、僕の目の前にネコ君が現れた。

目の前のネコ君。 - アロハシャツにショートパンツ姿だ。

ネコ君が口を開いた。

「ユウジ。クリーム色の恋」第2章」を始める気はないのかい？」

「無理だよ。僕のクリーム色の恋」第1章」は、幕が上がることにすらなかったからね」

「今回は、少なくとも幕が開くよ。向こうも、それを望んでいるからね。ま、幕が開いた後は、君次第だけだよ」

僕は、驚いて、ネコ君に訊いた。

「なぜ、向こうもそのつもりだとわかるんだい？」

「僕は、彼女の夢にも現れる許可を、彼女から直々にもらっているからさ」

と、ネコ君は、ちよつと、誇らしげにエヘンと咳払いをした。

- - そこで、僕は目が覚めた。

翌日……。

僕は、勇気を出して、彼女くクリームレディくをデートに誘った。
その瞬間、僕と彼女の心は、クリーム色のハートでいっぱいになり、そのクリーム色のハートは、次第に、ピンク色へと向かって染まり始めた。

クリーム色の恋、第2章が幕を開けたようだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9643g/>

クリーム色の出会い

2010年10月29日10時22分発行